

第5回コレクション展

「模型でたどる鉄道史～1号機関車から“スーパーこまち”まで～」の開催について

- 鉄道博物館では、明治期に製作されたと言われる最古の車両模型、鉄道会社の新車投入に併せて製作された車両模型や博物館の展示資料用として実写図面を基に製作された車両模型を200両ちかく所蔵しています。これら車両模型の多くは、実車の特徴を最大限に表現するため、細部まで忠実に再現された縮尺1/10や1/20の大型模型となっています。
- 今回、鉄道博物館の開館以降、未公開であったものも含め、館内に収蔵している車両模型を一堂に集めた、コレクション展「模型でたどる鉄道史～1号機関車から“スーパーこまち”まで～」を開催します。
- 本展示では、多くの車両模型を間近で見られるようにするだけでなく、車両の特徴や仕組み、歴史的変遷などをわかりやすく理解できるようにご紹介します。

- 会 期 2013年3月9日（土）～6月10日（月）
- 会 場 鉄道博物館2F スペシャルギャラリー1
- 入 場 料 鉄道博物館の入館料のみで、コレクション展もご覧いただけます。
※鉄道博物館の入館料は、一般1,000円（800円）、小中高生500円（400円）、幼児（3歳以上未就学児）200円（100円）です。※（ ）内は、団体（20人以上）料金
- 主 催 鉄道博物館
- 協 力 東日本旅客鉄道株式会社
- 後 援 さいたま市
- 展示内容 別 紙

■主な展示内容

1 特大模型から見える世界

車両模型は、縮尺1/10や1/15など全長が2メートル近くにもなる、特に大きな模型があります。これらの車両模型は、その大きさから精巧に作られた車両部品や車内の様子を再現し、実車を見ることと同じ感覚で楽しむことができます。



0系新幹線電車(縮尺 1/15 と 1/87)

※手前の模型は、縮尺 1/87 の H0 ゲージ模型



0系新幹線電車車内(縮尺 1/15)

2 模型でたどる車両の軌跡

車両模型を車種別の5つのゾーン(機関車、客貨車、新幹線電車、気動車、除雪車)に分け、時代ごとの代表的な車両模型を紹介することで、車両の歴史的な変遷や姿・形の移り変わりから車両の進化を見比べることができます。また、日本最古の車両模型や車両メーカーが製造記念に製作した車両模型等も公開します。さらに、車内や床下など精巧に造られた部分も映像でご紹介します。



1号機関車(縮尺 1/15)

※1871(明治4)年にイギリスで製造された日本最古の蒸気機関車の車両模型



最古のペーパークラフト機関車(約 1/20)

※1908(明治41)年に製作され、5900型蒸気機関車(旧山陽鉄道時代の様式)と推定される車両模型



9600 形蒸気機関車(縮尺 1/26)

※車両メーカーが、実車の製造を記念して1914 (大正3)年に製作された、銀製の車両模型



有蓋貨車(縮尺 1/8)

※明治末期に製作され、のちの昭和天皇に献上されたと言われる車両模型



200 系新幹線電車(縮尺 1/20)

※200系新幹線電車(1982(昭和57)年運転開始)とE5系新幹線電車(2011(平成23)年運転開始)のように、製造された時代が異なる車両の色、形状や車内の様子、車両部品の作りなどの移り変わりから進化した技術と現在もいかされている技術を見比べることができます。



E5 系新幹線電車(縮尺 1/20)



C51 形蒸気機関車運転台(縮尺 1/15)

※機関車を操縦するためのバルブや配管、計器までを精密に再現されている



キ 300 形雪かき車(縮尺 1/10)

※雪を跳ね飛ばす羽根車やその羽根車を回す蒸気機関が再現されている

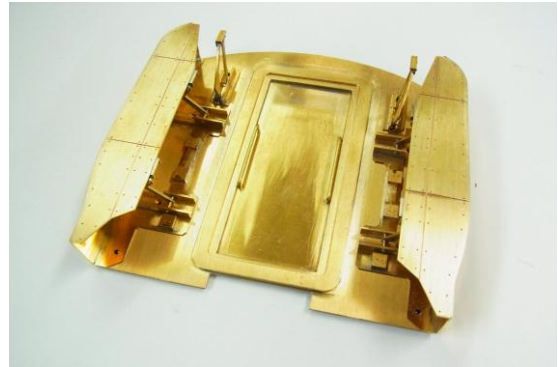
3 精密模型ができるまで

2013年3月から秋田新幹線の東京～秋田間において、“スーパーこまち”がE6系新幹線電車による最高速度300km/hでの営業運転を開始します。この“スーパーこまち”の登場に合わせ鉄道博物館では、E6系新幹線電車の精密模型を製作しています。このコーナーでは、完成したE6系新幹線電車模型と模型が完成するまでの製作過程をパネルや映像でご紹介します。

※E6系新幹線電車の車両模型は、3月16日（土）からの公開を予定しています。



E6系新幹線電車(実車)



製作途中のE6系新幹線電車の
連結面部分の部品

■会場



展示室イメージ